

琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 26 年度(2014 年度)第 2 四半期)

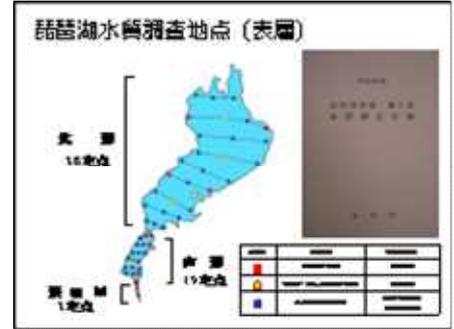
琵琶湖環境科学センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 26 年度第 2 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央 (通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



◎調査結果について

琵琶湖北湖の代表点として今津沖中央(17B)、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 26 年度第 2 四半期までの水質概況は次のとおりです。

○ 唐崎沖中央調査結果(6B)

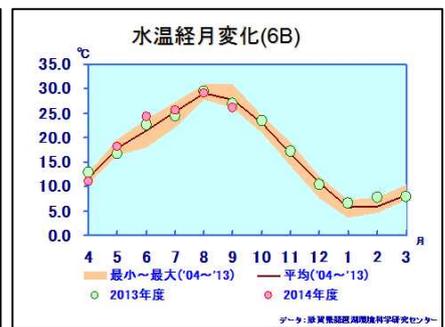
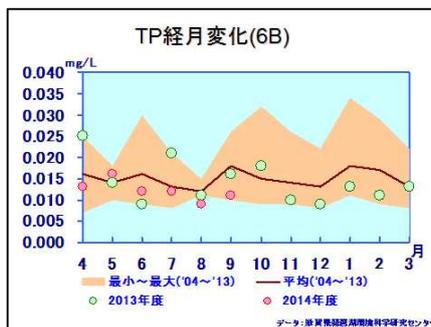
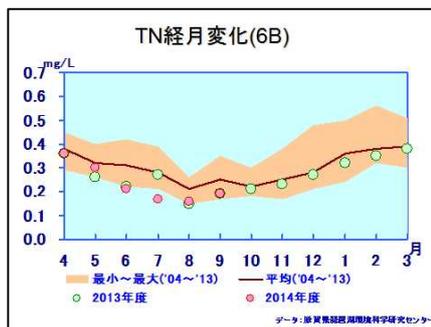
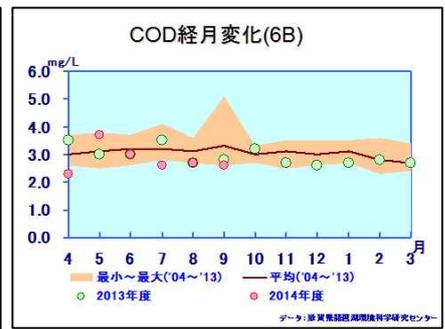
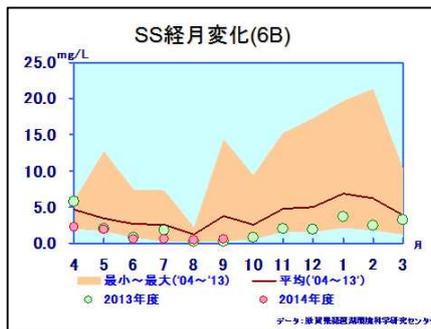
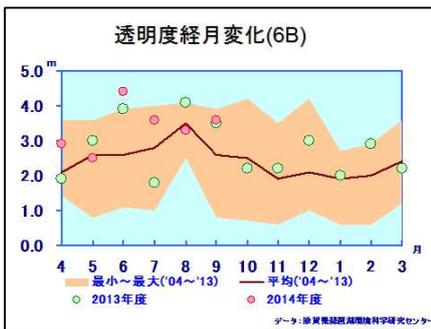
透明度については、7 月は過年度(過去 10 年間)平均値よりもやや高い値でした。8 月は過年度平均値並の値でした。9 月は過年度平均よりもやや高くなりました。SS は 7、8、9 月とも過年度平均値よりもやや低い値となりました。有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、7 月が 2.6 mg/L と過年度最低値(2.8 mg/L)よりも低くなりました。8 月は 2.7 mg/L、9 月は 2.6 mg/L となり、ともに過年度最低値と同値となりました。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、7 月は 0.17 mg/L と過年度最低値(0.21 mg/L)よりも低くなりました。8、9 月とも過年度平均値よりも低くなりました。

全りん(TP)は、7 月は過年度平均値並みの値でした。8 月は 0.009 mg/L と過年度最低値(0.011 mg/L)よりも低くなりました。9 月は過年度平均よりもやや低い値でした。

SS、COD、TN、TP とも第一四半期に引き続き低い値で推移しました。

水温は、7、8 月は過年度平均値並の値でした。9 月は 26.1℃となり、過年度最低値と同値でした。



○今津沖中央調査結果(17B)

透明度については、7月は過年度平均値よりもやや高い値となりました。8、9月は過年度平均値並の値でした。

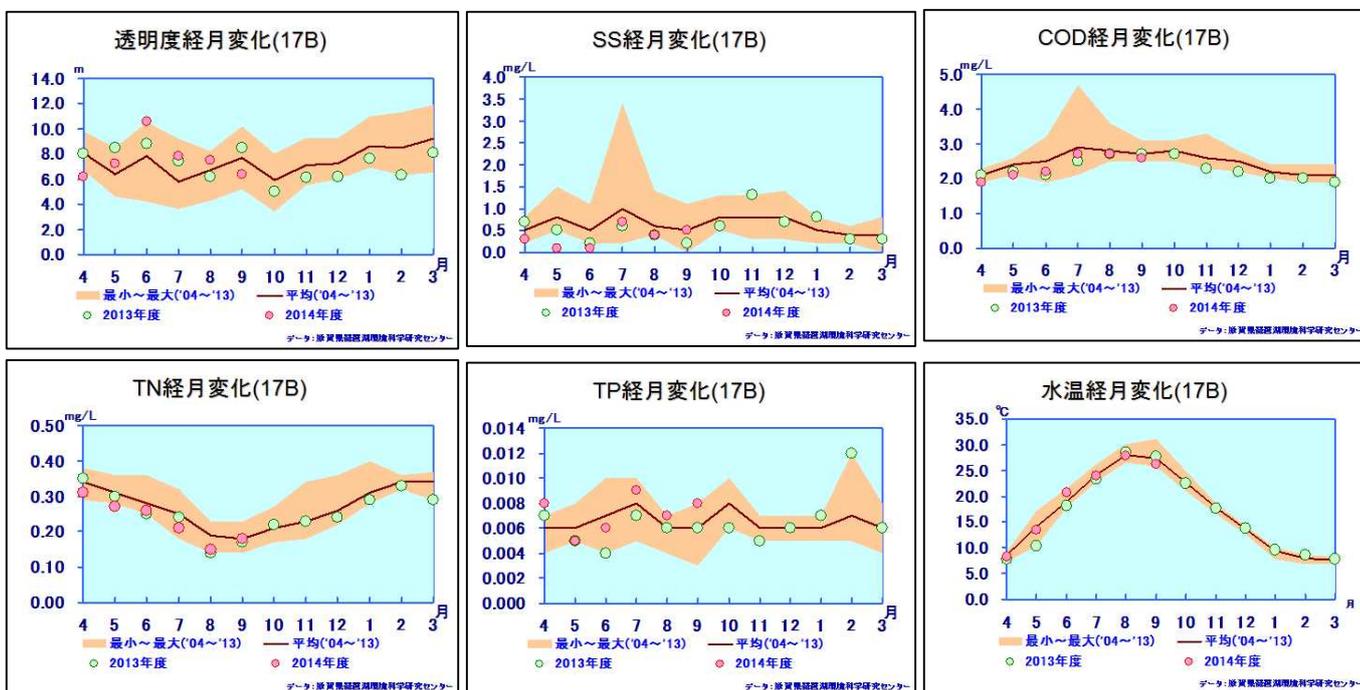
浮遊物質量(SS)については、7月は過年度平均値並みの値となりました。8月は過年度最低値(0.4 mg/L)と同値となりました。9月は過年度平均値並の値でした。

CODについては、7、8、9月とも過年度平均値並の値となりました。

全窒素(TN)は、7月は過年度平均値並の値となりました。8月は過年度平均値よりもやや低くなりました。9月は過年度平均値並の値となりました。

また、全りん(TP)は7月は過年度平均よりもやや高くなりました。8月は過年度最高値(0.007 mg/L)と同値になりました。9月も過年度最高値(0.008 mg/L)と同値になりました。一般的に第二四半期はやや高めで推移しました。

水温は7、8、9月とも過年度平均値並みの値でした。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

環境監視部門 公共用水域担当

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: dc51400@pref.shiga.lg.jp